

日本NPO学会・市民社会研究フォーラム

復興に向けて市民活動は うまく機能しているか

2011年11月12日
(キャンパス・イノベーションセンター(東京))

今瀬 政司

(NPO法人 市民活動情報センター 代表理事)

目次

- 【1】震災応援の市民活動の多様な担い手
- 【2】市民活動・NPO活動の機能と初期段階の成果・課題
 - 【2-1】市民活動性・ボランティア性
 - 【2-2】自発性・自律性と組織化・管理化
 - 【2-3】組織間連携
 - 【2-4】有償化・ビジネス化と支援金
- 【3】復興に向けた市民活動の主な機能
- 【4】〔事例〕3.11と闘う福島・会津若松

〔参考〕NPO法人市民活動情報センターの「災害と応援活動の情報」
のホームページ <http://www1m.mesh.ne.jp/~sic/>

【1】震災応援の市民活動の多様な担い手

1. 地元市民の活動・助け合い

- ・住民、住民組織、事業者等

2. 市民活動・NPO活動

- ・ボランティア団体・NPO等とそのボランティア
- ・個人ボランティア
- ・新たに結成したボランティア団体・NPO等
- ・企業・経済団体等とその従業員ボランティア
- ・その他

3. 自治体・社協の活動

- ・自治体・社協のボランティアセンターとそのボランティア、NPO等協力

【2-1】市民活動性・ボランティア性

1. 市民活動・NPO活動の機能(存在意義)

- ・個人の自発的・自律的な貢献力
- ・見えない多様な「痛み」に応える応援力
- ・既成の概念や仕組みに捉われない力
- ・無難な対処や問題解決・実行先送りの「社会体質」を直す力
- ・いざという時の「底力」、非常時の「勢い」

2. 初期段階の成果

- ・個人ボランティアやボランティア団体・NPO等の活躍
- ・個人の自律力・自発性、機動力、創造力、ネットワーク力の発揮

3. 初期段階の課題

- ・全体としては、NPO等の初動の遅れ、ボランティア不足
- ・市民活動性・ボランティア性の低下、「大人になったNPO」
- ・市民活動らしい「底力」の低下、緊急救援の「勢い」の弱さ

【2-2】自発性・自律性と組織化・管理化

1. 市民活動・NPO活動の機能(存在意義)

- ・自発性・自律性と組織化・管理化の適正バランスによる活動
- ・個々の自発的・自律的な動き⇒必要に応じた連携・協働⇒組織化

2. 初期段階の成果

- ・ボランティア・NPO等の組織化・管理化による一定の効率的運営

3. 初期段階の課題

- ・行き過ぎたボランティア・NPO等の組織化・管理化
⇒自律性・平等性から上下・画一的管理化への変化
- ・ボランティアへの過剰な「抑制力」と管理体制
⇒多くの潜在的なボランティアの動きにブレーキ
- ・待ちの姿勢、無難な対処や問題解決・実行先送り

【2-3】組織間連携

1. 市民活動・NPO活動の機能(存在意義)

- ・緊張感を持った対等な「協働」関係の構築
- ・真の多様で柔軟な「新しい公共」活動に伴う「古い公共」の変革

2. 初期段階の成果

- ・NPO等どうしの連携(東日本大震災支援全国ネットワークなど)
- ・NPO等と行政の連携(国の担当部門設置、NPO等と国の連絡会議、自治体・社協のボランティアセンターへのNPO等の協力など)
- ・NPO等と企業・大学等の連携(企業の従業員ボランティア、大学のボランティアチームなど)

2. 初期段階の課題

- ・緊急救援実行よりも組織づくりが優先された傾向
- ・被災地と被災地以外との連携不足、意識の温度差、上から目線
- ・NPO等と行政の実務での連携不足(被災地外での情報交換中心)
- ・各組織の発信情報の交通整理の不足

【2-4】有償化・ビジネス化と支援金

1. 市民活動・NPO活動の機能(存在意義)

- ・ボランティア性・市民活動性とビジネス性の適正バランスによる活動
- ・「有償から無償へ」(緊急救援時)、「無償から有償へ」(復旧・復興期)の切り替え力
- ・「ベンチャー以上のベンチャー」としての潜在需要の発掘と需給創出
- ・用途等を明確にした支援金集め、支援金の透明・公正・有効な活用

2. 初期段階の成果

- ・NPOの有償化・ビジネス化による安定的な組織対応
- ・NPO等向け支援金の活発化による安定的・継続的な展開

3. 初期段階の課題

- ・NPOの有償化・ビジネス化に伴うボランティア力・機動力の低下
- ・緊急救援実行よりも資金づくりが先行した傾向
- ・支援金の偏り(団体間の過不足)と透明・公正・有効活用での課題

【3】復興に向けた市民活動の主な機能①

1. 直接的な応援活動

(1) 生活・暮らしの応援

- ・見えない「痛み」の顕在化とその応援(例:仮設住宅・復興住宅等)

(2) 仕事の応援

- ・新たなビジネスや産業の苗床の創出

(3) 地域づくり、地域創生

- ・壊滅的な被害を受けたまちでの「住民主導や協働による地域づくり」
- ・既成の概念や仕組みに捉われない新発想による復興、地域創生
- ・風土・歴史、思い、人間関係等も踏まえた丁寧な取組み(潤滑油等)

(4) 域外避難者の応援 (5) その他

<例>

- ・福島役場まるごと避難での体制づくり、自治体の中にある自治体
- ・地域復興と一体の複合アクセス網による三陸南北軸の地域間連携
- ・自律連携型の漁業復興や災害に強い地域づくり

【3】復興に向けた市民活動の主な機能②

2. 間接的な応援活動

(1) 教訓を引き継ぐこと

- ・被災地の「現実」を見続け、知り続け、忘れぬこと(応援継続の源)
- ・災害拡大と救援・復旧課題の一つ一つの原因の明確化
- ・非常時の検証からの「次期の非常時のあり方」(教訓)と「今後の平時のあり方」(構造・体質変革)

(2) 社会の仕組み再構築の研究・提言

- ・「新しい公共」の曖昧さを改善した上での市民主権に基づく多様で柔軟な自治と協働

(3) 伝え続ける役割(情報の収集・整理・発信)

(4) つなぐ役割

- ・被災地内外での温度差、格差、心の溝を小さくする取組み

(5) その他

【4】〔事例〕3.11と闘う福島・会津若松

1. 東日本大震災と原発危機という3.11の被害

- ・3.11が問う私たちのあり方
- ・3.11による福島の被害

2. 3.11による会津若松の被害

- ・東日本大震災による会津若松の直接被害
- ・原発危機による会津若松の風評被害

3. 原発被害者の会津若松への避難

- ・原発被害者の闘い
- ・役場まるごと避難での体制づくり
- ・自治体の中にある自治体

4. 会津の人々の誇り

※参考：今瀬政司「3.11と闘う福島・会津若松 ～発災からの半年間～」(社)奈良まちづくりセンター『地域創造』第50号掲載論文